

令和5年度 大田区防災会議（第1回） 議事要旨

1 日時

令和5年11月8日（水）午後2時から3時

2 参加者

別紙「令和5年度大田区防災会議（第1回）出席状況」のとおり

3 議題

- (1) 大田区地域防災計画の素案作成について（資料番号2）
- (2) 今年度の区の防災事業について（資料番号3）
- (3) その他

4 議事要旨

- (1) 大田区地域防災計画の素案作成について（資料番号2）

資料に基づき事務局から説明を行った。

（委員意見）

区が行う助成事業や補助事業の周知がまだまだ行き届いていない方がいる。平時・災害時の情報発信の手段・方法を更に発展させてほしい。

（区の回答）

現在の所持している情報発信ツールに留まらず、それらを使用できない方への情報発信についても検討してまいります。

（委員意見）

防災活動拠点について、真夜中の発災や避難所運営者の被災などの最悪の状態を想定することで実効性の高いマニュアル整備が可能となると思う。また、地域の実情に合わせて臨機応変に備蓄品を精査すべきと考える。

（区の回答）

現在大田区の危機管理体制と物流体制の見直しを図っております。委員にご指摘いただいた点につきましても、併せて体制整備に努めてまいります。

- (2) 今年度の区の防災事業について（資料番号3）

資料に基づき事務局から説明を行った。

（委員意見）

各機関で何か企画される際に、要配慮者の方たちがどうやったら参加できるだろうかと考える視点を持っていただけると、弱者といわれる人たちが取りこぼれない体制に繋がっていくと考える。

(区の回答)

コロナ禍を受けて下火となった総合防災訓練の復活を考えている。抱えている様々な課題を取り入れ、徐々に体制づくりに取組んでまいります。

(3) その他

防災全般に関する意見・要望など

(委員意見)

住宅用火災警報器のあっせんについて、あっせん価格がインターネットなどで買うのと大差がなく、自治会で回覧しても購入者が少ない現状である。区からの補助を検討いただけないか。

(区の回答)

あっせんの事業者と交渉をしているが価格の低下は実現しておりません。区の役割として、その器具がいかに有効なものかをお伝えすることが重要と考え、ちらしの配布を通じて啓発を進めております。委員ご指摘の住宅用火災警報器に限らず、家具転倒防止器具や感震ブレーカーにつきましても、今後の事業の進め方を引き続き検討してまいります。

(委員意見)

市民消防隊について、放水の発表会がコロナ禍で中止になった。市民消防隊の人たちのモチベーションが下がってきているので発表会を復活していただきたい。

(区の回答)

コロナ禍を踏まえ、ここ2年は発表会の代わりに、人数を制限した技術的な訓練を実施してきた。この訓練が非常に有意義だったと声をいただく一方で、発表会の復活を望む声があることも聞いています。来年度はその二つが叶うような計画を準備してまいります。

(委員意見)

各病院で緊急医療救護所の訓練などを実施しているが、その病院で対応できる規模以上の災害への対応を区はどう考えているか。

(区の回答)

今の区の体制では大規模災害へは対応しきれないと認識したうえで、災害時の職員配置の見直しや民間事業者の活用などを検討してまいります。

(委員意見)

想定していた規模を超えた災害への緊急の対応も考えておくことができれば、発災時に慌てることも少なくなるのではないかと思う。